



民家分量記

二

再板



百姓分量記第二

野洲後學常盤貞尚演

親の養付子れ生育おや せいぐい ちり せいご

上は之を養はるる百姓のありしつゝさうし思あづかる
 一はゆり先ハ父の子孫せざる者思ふよりあづかる
 一はの賢良の失つる物たるは疎し思ふあづかる
 一は才を以養ふといふも養ふ一は養ふ事と養ふあづかる
 一は上つるの物より下つる物とより下るは養ふあづかる
 一は事と養ふかかるとを養ふはつゝさるは養ふあづかる
 一は養ふ人無つゝ一は養ふ乃養ふと養ふは養ふあづかる

百姓分量記第二

顔は油はもとく拉さしり、頬指の口吸乃と露
 一物にさるはハ子、僅さるもそ死と志ぬ事
 中垂いぐ一物に法事人嘘と我まきと精出で
 我或る物に思て世話とやとを家からささうて
 指者と指思一物中と海伴るいさうし一物て改
 色ハ健業くと巻るや一負て揚もハ死せて生
 子成せとある果ハ長喧地に強び欲が物もどん喫
 とほふ事人のほなるう業はと家の人今もねね
 赤擲一或ハ動さる一と一とハ教書さるをもつり

姑善に海深る物と白くせんせさるる一物
 く哀なる事と十後此属親にも不孝一
 子依ん瘞人け、と此ハ悲熱の中、に屈
 死と畜類の子依懐じ情ハ人るうらむを
 一とさもた多ハ死のどろ我ハ歎ハ是ふ事
 とろさぬ人うてハ人るるは、を我へさ
 何一と事とさるハ多歎福を子依ふは、を
 此ハ親此此朝子ハ此此朝先祖の統
 する物なるは、此に溺きて跡よとるハ大不孝

入親を孝へしはもろくも孝へしはもろくも
 時のおおむけはつと来はらうとせむる物江石孝此
 孝ハ知おれ時家へいせむる病ハ到て親代
 正親よとんとあふれとらふものとせむる孝代
 権を孝ハ来ら御出くも孝志と成る御代
 言本代た人忠直年法てたへ突んとるふ似
 子故に不孝の智ハ親にちらふと三つとハ在
 本とて子の子の理屋にさうふと思ふ地堅る是は
 種英之文畏しきまは子孝へ娘を親養しきま孝

孝とて姑はくしてを更らるは親里の養ら
 ハと思ひくは魚塩忠して孝代なる物とあふ
 くは里ゆくと久くを孝とて孝養と親い
 親つと疎の端とを孝とて
 子代育あゝ温るるとハ大毒之温るは肉脆く
 筋骨よりたゆみかた寒寒肌温を中ふまのこ
 然るに孝は出地りてそそぬまの子は改志漸
 此中にくまらふ息災はあ富を此子病病人
 孝ハ右北なる物と忠告の孝へしは新と修治

にくくみ神と薬と中とみせ薬と焙巨
 糖へ糖をふせさる少火氣稜と焼し孫身
 の色し瘰と生し金うぬるのこ後中よ他
 せして糖と赤とし喰ハ冬暖かきハ末年如
 了はあはれや食ハ耳う休えども倍美し
 茶よて梨ゆへらりかど砂糖はく製菓子
 ハ初らるんごぶごをせにむせて見えし
 候しつ食をふせさるゆりゆりうらるる海の子
 にあ耳と物のほはせさるると合然かん一

小児に多ハるる魚ハ糖に物干物乾が一つハ
 養ハるる候も此ハ魚ハ割て申しぬたる
 一ハ山家ハ魚喰ハ者に長命ハあ候漢色にハ
 女ハ今ハ代ハ食せと一糖をて後らと果食
 とまうゆもハ後ら漢ぬ少喰うらて茶せらと
 糖の物を申る者ハ一糖乳母はきり糖はまハそ
 乳母といま一びり一乳母ハ一まもこごま子のせお
 とこが強りて候して物乾ハハるる物らなると
 乳ハ大毒ハ醫者ハ子ハ生者ハばよくまつて

右ノキハシメテハバシラシキニシテ法ハ高ク希ニシテ
山也ノ樹ハ瘦キニシテ法ハ高ク希ノ木ハシラシキ
トキトキ同シテ法ハ高ク希ノ木ハシラシキ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
破テ高キニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ

孝ノ大旨

孝ハ人ノ大旨ニシテ生ルニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ

仁ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ
法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ法ハ高ク希ニシテ

と帯の口麻に七中者及親の身代返と計
 はあハ孝行等々一りもハヤ難し焉一及哺
 の者ありとて粟に之類もて目救やと哺を
 一し油も焉に七方者あるゆん一と
 上代人ハ其代也人を親に身代返難
 ハ何ゆへなる也ハ情欲深たも己に之類
 ぶ南産れねと又親ハ兼作一せ人あは
 兼の分ぬよの二三するハ孝行は當と
 兼ハ親に代はよく知て和と致ひ切

一ハ親ハ中一以持一嘔吐口傳と行一
 大酒ゆをといま一也蒸餾を親の婦ハ幸
 と保と一若方と也あもあハ中一に
 一ハ親と類ハ中一にハ源也ハ親ハ孝一
 或ハ世ハ指物夕の起病とを兼をひさ
 方おハ一と有て親志と見さ一と一
 親の身代返と格懐の身一と見合
 朝ハ初一と一とを笑見一と一と

念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく
念ねんのこころをばたき又また念ねんをわけてほむを長ながく

一孝のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く
念のこころをばたき又念のこころをわけてほむを長く

夫婦の睦

夫婦は父は夫婦しを理夫婦有るは父子起つて見
 分る陰仲和令して物生むる理に小
 天化より取れ別して心く思ふべしと事交ぬ
 ハ淫欲と云ふて令入物あるハ睦しとハ志まこ
 る理しと云ふは令然せばは多の被感んを
 道とハ子孫お濟のり之淫欲はる計すハ物
 とぬじや口をさるべし故に夫婦戯を瀕り時
 礼をて因縁滅し少と彼あり古今例也

孝の書子よりなる物たはハ神のまご
 ども書と云ふくハおとよりハ神として孝の
 こと一終まハ書を順て孝ひする物ハ書と
 定し時を始終候そとて感とて訓め
 物子會うととんあはまハ割傷つと出終ふ不
 孝ふ貞と云ふ化淫して嫉妬と起さし
 ハ夫の智し務子向よりおは事いるると
 こと書れし子ハ疑りてして心入るるもの
 色ハ終るをりる物し若くは入るべし

文正あつた一書あひわくまあふひあふ者あふ情あふなるあふ心あふハあふ生あふく
 子あふをあふ必あふふあふふあふおあふおあふおあふおあふ勤あふるあふハあふ第あふ一あふ男あふ姑あふく
 者あふ依あふをあふ一あふ文あふをあふとあふとあふをあふ列あふ侮あふくあふどあふ吏あふ化あふ強あふさあふる
 とあふ七あふ情あふ業あふとあふいあふまあふりあふのあふ吏あふのあふ見あふ方あふとあふまあふりあふとあふおあふおあふおあふおあふ
 とあふわあふくあふうあふうあふまあふのあふ出あふ入あふ人あふとあふをあふおあふたあふうあふくあふ物あふをあふおあふうあふ
 後あふまあふとあふ男あふらあふるあふ者あふとあふハあふ小あふ男あふとあふをあふ哭あふくあふ列あふをあふふ
 べあふくあふどあふ法あふくあふ溺あふもあふくあふ出あふかあふくあふ交あふうあふかあふくあふどあふ強
 ちあふんあふああふまあふりあふ起あふりあふ一あふ星あふ帰あふりあふてあふ男あふ共あふ家あふ内あふハ
 中あふにあふふあふ女あふ親あふ於あふ朋友あふ比あふ嗔あふりあふべあふくあふどあふ必あふ女あふ親あふと

始あふゆあふりあふまあふおあふおあふおあふおあふ強あふくあふ身あふをあふしあふどあふをあふとあふしあふうあふとあふ
 いあふんあふハあふ智あふかあふうあふりあふべあふくあふ女あふハあふ内あふ婚あふああふまあふりあふ人あふとあふいあふま
 一あふとあふ利あふ根あふをあふまあふりあふ六あふ情あふむあふじあふうあふくあふんあふおあふまあふまあふとあふあ
 ゆあふめあふ根あふ生あふ依あふ在あふてあふ勤あふりあふ依あふ女あふ吏あふ吏あふとあふいあふま
 吏あふのあふ書あふにあふうあふりあふ幸あふ三あふつあふりあふとあふ骨あふ六あふ初あふ婚あふのあふ書あふ
 中あふにあふ戲あふ事あふをあふ即あふ心あふ分あふのあふきあふどあふ儀あふきあふのあふ同あふ定あふ比あふと
 誓あふ文あふ八あふ百あふをあふ立あふ証あふをあふ痛あふいあふつあふしあふのあふ秋あふ肌あふを
 外あふ方あふをあふ依あふりあふ時あふ候あふ奴あふ大あふくあふ起あふりあふとあふ外あふのあふ時あふをあふ失
 へあふ始あふのあふ詞あふがあふ毒あふくあふしあふ負あふひあふハあふをあふしあふぬあふしあふ第

二に子箱金田相替お糸とらとて大切の敷
 済と雖も一とらとら一係とらとては言
 交夫也美余たも花一物一物休おえと
 肩のにおいんたも三とて思行て中居家此
 樹とらと切重とらとてまけ初とらとら
 け幸とて地とら合既一自い藁と見えん正
 一とて志おさど仰一後とら理はくとと
 角を交れ心に唯ひ婦たるととて惟兼を
 なくお糸金乃白ひとけくと中ぬとらと

此の書と憐ひのそと十九の更の因甲とらと
 と後果もとらゆくとらとて殊の起る

兄弟此中

兄弟の因親因体はくとらとて親もも
 一とら係とハ誰ととらとらとらとて親
 んどてがとて創傷事ハ親の体と傷
 を回おはくと兄弟と親にもとらとて親
 了とらと今多とらとて親飲食所とて親
 了とらと物休とらとて親と物休と

食とすべし衣被食物ハ親と先けて我より
 子親の身体味事しもうハ一人ありしや親
 の是は論でハあるべし我子ハ論である
 者ハ何ト云ふるや此は世へも我子ハ十分を
 足すと云ふこと終に歎く骨肉と以て悦び
 悦歎くやくもろハ不善不悦ト云ふこと
 ハ親ハ妻ハ衣被食物改更すべし兄弟ハ
 父母の如し難くもつと云ふこと醫書にハ
 の肉死肉ハつらうは是は利ねと不仁と云ふ

このやまの縁
 此痛根より下ろの虚非有ゆえ醫脚毛と云へ
 知ある業と用中は病を失久しは是ハ業と
 毛不瘡と云ふ父子兄弟骨肉ハ申隔つと
 不仁と云ふ根ハ必歎く家者へ仁義の業は
 用中ハ家歎去ておわくこと悟くする物也小括
 つつ出ても支離しり父子兄弟骨肉ハ大
 支離たるは是らばるを事るに何と云や
 親に支離ハ親子の始は骨ハ他人に始むりし里
 ともハ親しくん無てを改く家らる物中此

の是務きくも無人あつてはつるもつる一舟合て
 色と下一我克んとす統ハ被と務んと一
 我仍まハ被と欺と我悦めん被と悦びと統
 乃交ハ死と殺しじりといふ物也我の事も是若
 人にををさげしは我らと此人たより何とい
 祢ハ交ハ被と欺ハ長と善ハつんとど不忠といふ事
 也つ此といひてくもつ人と死つてを交と下
 我ハ醫者有智と神者といふ事とやせむ被と
 了てるわん人といふより人なりき富で誇る

女依いぞうしとせんや業と勤意くどハ無相よ
 てと名食臣ハ事足ぬ一事足ハ何と被と
 と友とせん女を欺ゆかするべ一欺あまハ卑一
 卑一はまハ福ハ福ハ人よつとどまもつ醫者ハ
 類生依行ハ知なきをた知ゆ人よりと友を事た
 兼出といひてくもつらん交といふべしといふ
 介ハおろしめおろしせん事るべし
 わしともいふことばとていふせんおろし事る人の心
 以欺れんて面友の交さつる事なり

や見ぬ救へて此の世に申候じむの先と
 誰か離れ下りて後世はあふ所は候へし下
 申す仰敷く成ては同じく候へば候へし下
 乃おほく嘘といひ多し素直素直よたる物
 所に任せて此の深程とて候へば候へし下
 ハ世母や母がいやがるよと仰り候へ
 親類の如き如少業業候へし下
 親類ハ一知して出入候へし下候へし下
 情のせむは候へし下候へし下候へし下

いひくても候へし下候へし下候へし下
 瘦我候と起して候候へし下候へし下
 ぞりて一候へし下候へし下候へし下
 をかきと申す候へし下候へし下候へし下
 我の深く恨の如き候へし下候へし下
 色つふ物候へし下候へし下候へし下
 孫子ハはわまう物候へし下候へし下
 ハ恨と候へし下候へし下候へし下候へし下
 業候候へし下候へし下候へし下候へし下

羨ましくして一りとして一箱一箱の富の平と取り集り
 後まゝかろつ且の事あるはれども男あつと
 何ぞ嫌をへ一人は使入んは如くせんをへんが
 早くと叱まふる程とあふ恨恨て他はふし
 爰く仕へ月と盗殺さすはのさとこの其ま
 朝へ八家て来るは使入るに御約す教
 人使入の如く仕入と未懐を起さすは
 人使入に先と仕入顧るへ不存不たるも
 八家討つと盗殺さすは舌強と舌と慣食は

敵の如く候い懦弱の馬鹿なるも八家と略す
 の勇出たのやうなるも未懐て盗殺さすは
 愚一愚態と事とあつたは八家と道一太田の
 事と八家と不敵朝は候と約ひて法と事
 て仕へども仕入へと事ハ愚態仕ひ候作たす
 心成り忘し情と感して仕入る物と出候の
 前何とまじに八家と仕入候と事と八家
 何ぞやと事と隠密なる事と被承はにり
 と先へ出へ八家と仕入候と事と八家

集と愛収を言ひあはさし子後の汝ハ天を
え候も人を知て抱子に比れを言ひあはさし
神ひこふたまらうにせむはあつとせむ
井穀をそ果りて人伝後志を言ひあはさし
うた物とて言ひあはさし農と急うと急
所を國志の事と候とて言ひ比れ比救人乞
戒光法依りて人の膏と押つか人穀集
羊首を深りるなりあはさし比れ比救
法出朱しとて人急あはさし人急あはさし

殊とて言ひ難有仁政なりけし法一二ヶ打抄ん
てハ急とて言ひ人急あはさし村より上たき
うと急とて言ひ人急あはさし急あはさし
くそ急とて言ひ人急あはさし急あはさし
よ松たき急とて言ひ人急あはさし急あはさし
こそ急とて言ひ人急あはさし急あはさし
肉一人の急とて言ひ人急あはさし急あはさし
急あはさし急あはさし急あはさし急あはさし
急あはさし急あはさし急あはさし急あはさし
急あはさし急あはさし急あはさし急あはさし
急あはさし急あはさし急あはさし急あはさし

分量記卷二之終

良外書言終

三十三

江見
李東



